

JAPIC NEWS

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

今月の表紙 あらせいとう



Contents

■ 巻頭言

「健康サポート薬局」とこれからの薬剤師

昭和薬科大学 学長 西島 正弘 ……2

■ インフォメーション

3月発刊!

「JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2018」……………4

「日本の医薬品 構造式集 2018」…………… 4

■ コラム

くすりの散歩道 No.118 「アームストロング」

(一財)日本医薬情報センター 業務・渉外担当 蓼沼 宏昭 ……5

最近の話題「サイエンスのフロンティア」

元大阪大谷大学薬学部教授 株式会社新日本科学PPD ファーマコビジランス 雪村 時人 ……6

■ トピックス

武蔵野大学薬学部、広島国際大学薬学部で「iyakuSearch」検索講習会を行いました ……8

JAPICサービスの紹介 医薬品情報データベース iyakuSearch ……9

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報よりー(抜粋) …… 10

■ 図書館だよりNo.333 情報提供一覧 …… 11

3

2018 | No.407

「健康サポート薬局」と これからの薬剤師

昭和薬科大学 学長
西島 正弘 (Nishijima Masahiro)



国民の健康意識が高まる中で、薬剤師・薬局がただ単に調剤をするというだけでなく、国民の健康づくりや疾病の予防についても積極的な役割が求められるようになってきています。平成25年6月に決定された日本再興戦略の中では、薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行うなど、地域包括ケアやセルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進することが盛り込まれました(図1)。

一方、昨今、規制改革会議等で医薬分業のあり方が大きな議論になっており、患者負担がかかる一方でメリットがなかなか感じられないのではないかという指摘がなされています。これに対して、「『日本再興戦略』改訂2014」の中短期工程表においては、医薬分業の原点に立ち返って、薬局全体の改革を推し進めるために、2015年度中に健康情報拠点として相応しい薬局の定義・名称、基準の策定、公表の仕組みを検討することになりました。

これらのことを踏まえて、平成27年6月に「健康情報拠

点薬局(仮称)のあり方に関する検討会」が設置され、計6回にわたり検討会が行われ、9月24日に議論の結果が報告されました。検討会が開始された当初は、「健康情報拠点薬局」という名称が提案されましたが、途中「健康づくり支援薬局」という名称が提案され、最終的には「健康サポート薬局」という名称に決定されました。筆者はこの検討会の座長を務めましたのでその概略を紹介し、これからの薬剤師のあり方について考えてみます。

「健康サポート薬局」として相応しい薬局は、かかりつけ薬剤師のいる薬局でなければならないとされ、かかりつけ薬剤師・薬局の基本的機能について、下記の3つの視点から基準の検討が行われ、それぞれの要件が纏められました。そのいくつかを記載します(図2)。

(1) 服薬情報の一元的な把握とそれに基づく薬学的管理・指導

①患者がかかっている全ての医療機関を把握して、一般用医薬品等を含めた服薬情報等を一元的・継続的に把握するよう取り組み、薬歴に適切に記録していること。

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目標に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築**を実現していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**必要があります。

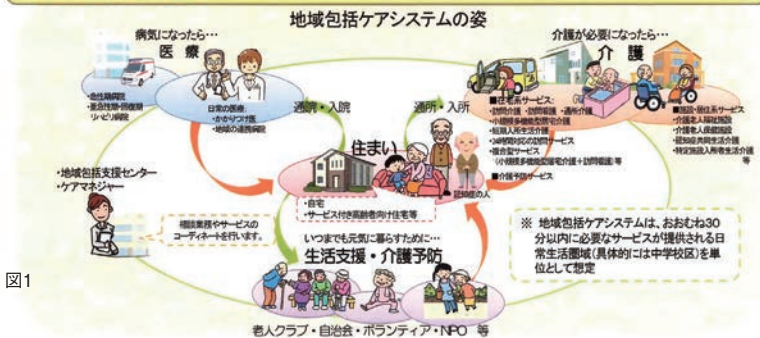


図1

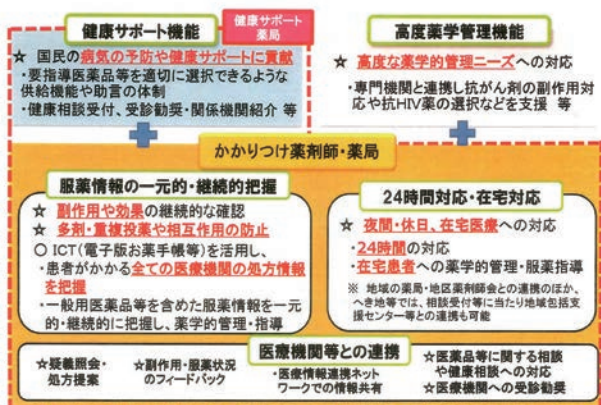


図2

②かかりつけ薬剤師・薬局を持たない患者に対し、薬剤師が調剤や医薬品供給等を行う際の基本的な役割(薬歴管理、疑義照会、服薬指導、残薬管理等)の周知に加えて、かかりつけ薬剤師・薬局の意義・役割や適切な選び方を説明し、かかりつけ薬剤師・薬局を選ぶよう促していること。

(2) 24時間対応、在宅対応

①開局時間外であってもいつでも、かかりつけ薬剤師(かかりつけ薬剤師が対応できない時間帯がある場合にはかかりつけ薬剤師と適切に情報共有している薬剤師を含む。)が患者からの相談等(必要に応じ調剤を行うことを含む。)に対応する体制を整備していること。

②在宅患者に対する薬学的管理及び指導の実績があること。

(3) かかりつけ医を始めとした関係機関等との連携強化

①かかりつけ薬剤師・薬局として、地域住民からの一般用医薬品等の使用に関する相談や健康の維持・増進に関する相談に適切に対応し、そのやり取りを通じて、必要に応じ医療機関への受診勧奨を行うこと。

②地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションなどの地域包括ケアの一翼を担う多職種と連携体制を構築していること。

我が国では、昭和49年の医療費改訂により処方箋料が大幅に引き上げられ、これを契機として医療機関の院外処方箋発行が増加し、同時に調剤薬局も徐々に増加し、医薬分業が進展してきました。その結果、外来患者に係る院外処方の割合を示す医薬分業率は平成27年度には70%に至っています。しかし、門前薬局を中心とするこれまでの医薬分業体制に対しては批判が多く、医薬分業の原点に立ち返った議論が進められ、上述した「健康情報拠点薬局(仮称)のあり方に関する検討会」の議論を踏まえ、平成27年9月に厚生労働省から「健康サポート薬局のありかたについて」という報告書が提出されました。また、平成27年10月には厚生労働省により「患者のための薬局ビジョン」が提出され、～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～というキャッチフレーズが掲げられました。そして、平成28

年4月から「健康サポート薬局」という新しい制度がスタートすることになりました。

これまでの薬剤師は、処方箋の調剤を主な業務としてきましたが、これからの「かかりつけ薬剤師」は医薬品という「モノ」と向き合うのではなく、患者や医師という「人」と向き合うことが業務の中心となってきます。近い将来、調剤の機械化・ロボット化が進めば、薬剤師の業務が調剤を中心としてきた時代は早晩終わりを告げることは明らかであります。「かかりつけ薬剤師」の仕事は、医師の処方適切であることを確認したり、複数の医療機関から出される処方薬のすべてを把握し、その量や種類、相互作用などを管理し、そのうえで患者に薬剤の説明と服薬指導を行うといったことにシフトするようになります。加えて、患者の「かかりつけ医」をはじめとした医療機関と普段から密接な関係を構築し、適切な受診勧奨の実施や在宅医療への対応なども担わなければならなくなります。

「かかりつけ薬剤師」がこのような新しい職能を果たすためには、6年制薬学大学教育が重要であることは言うまでもありません。平成27年4月から施行された6年制薬学教育における新コアカリキュラムには『薬剤師として求められる基本的な資質』として「薬剤師としての心がまえ、患者・生活者本位の視点、コミュニケーション能力、チーム医療への参画、基礎的な科学力、薬物療法における実践的な能力、地域の保健・医療における実践的な能力、研究能力、自己研鑽、教育能力」の10項目が掲げられています。6年制薬学教育では約5か月に亘る実務実習の導入により効果を挙げつつありますが、臨床系指導教員の不足など、社会から求められる薬剤師を育成する教育システムには改善すべきことが未だ数多く残されている。そのような中、薬学部・医学部・看護学部などの学生が一堂に会して行う多職種連携教育や臨床系教員の再教育の取り組みが開始されつつあり、成果がでることを期待しています。

「かかりつけ薬剤師」を育成するためには、既に薬剤師資格を有する人たちのへの研修も欠かすことができません。「健康サポート薬局」の基準告知において、「健康サポート薬局」には、要指導医薬品等及び健康食品等の安全かつ適正な使用に関する助言、健康の医事増進に関する相談並びに適切な専門職種又は関係機関への紹介等に関する研修を修了し、一定の実務経験を有する薬剤師(研修修了薬剤師)が常駐することが定められています。このような研修を含め、薬剤師の生涯研修は今後ますます重要になります。

我が国は、高齢化社会とそれに伴う医療費の莫大な増加という大きな課題を抱えています。これに対処するため、地域包括ケア、チーム医療、在宅医療、セルフメディケーションなどの推進が図られており、「かかりつけ薬剤師」が、医師や看護師などの医療従事者との連携により、その先導役を果たすことが期待されています。

3月発刊!

「JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2018」

毎年大好評の『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2018』を3月中旬に発刊いたします。

本書はコンパクトなA5判で2018年1月までの添付文書情報を収録しておりますので、毎年8月発刊の医療用医薬品集のハンディ版あるいは追補版としてもご活用頂けます。

《本書の特長》

・「JAPIC医療用医薬品集」収録内容から臨床で利用する頻度の高い〔組成・効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意（相互作用、副作用、妊娠授乳婦投与、高齢者投与、小児投与等）、半減期〕を抽出、要点に絞って編集し、一回り小さいA5判のハンディサイズにまとめました。

・2018年1月時点までの約2,200成分、約22,000製品の最新医療用医薬品情報を収録しております。

・医療用医薬品集に比べページ数は約半分となり、価格もお求めやすくなっております。

価格：4,800円（+税）。A5判 約1,900ページ（販売：丸善出版株式会社）



『日本の医薬品 構造式集 2018』

『日本の医薬品 構造式集 2018』を3月上旬に発刊いたします。

化学構造式にはきわめて多くの関連情報が含まれており、それらの情報から医薬品の代謝や薬理作用などを類推することができ有益です。最新の構造式を収録した書籍は他に見られないことから貴重な資料となっております。

《本書の特長》

・「JAPIC医療用医薬品集2018」収録成分から一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約1,400成分の構造式を収録しております。

・各成分には構造式のほか、一般名・化学名・薬効分類・効能効果・CAS Registry number・分子量・分子式を記載しております。

・索引は五十音（和文）索引とアルファベット索引の2種類を収録。五十音索引では製品名による検索ができます。

・お求めやすい価格にてお届けいたします。

価格：1,800円（+税）。B5判 約250ページ（販売：丸善出版株式会社）



くすりの散歩道 NO.118

アームストロング

(一財)日本医薬情報センター 業務・渉外担当
 蓼沼 宏昭 (Tadenuma Hiroaki)



2020年の東京オリンピックを前に、ドーピングの話題が世間を賑わせている。スポーツとドーピングは古くから関係があるようで、人ばかりでなく競走馬に興奮剤が用いられ、近年では検査尿をすり替える行為も指摘され、アスリートは「禁止物質」と「禁止方法」について注意が必要だといわれている。

ランス・アームストロングという名前をご存知だろうか。アメリカ テキサス州出身の自転車プロロードレース選手だ。1996年に精巣腫瘍に冒され、脳や肺にも転移が見られたが、過酷な化学療法を克服し、1998年に復帰。1999年から2005年まで7年連続ツール・ド・フランスで総合優勝した。2005年のツール・ド・フランスを最後に引退を表明したが、2008年に現役復帰を宣言し、2009年のツール・ド・フランスでは総合3位に入るという驚異の強者だ。

しかし2012年6月、全米アンチドーピング機関はアームストロングに対しドーピング違反があったと判定し、アームストロングはツール・ド・フランス7連覇を含め、1998年8月以降の全獲得タイトルを剥奪され、自転車競技の世界から永久追放された。

2016年には、彼の栄光と転落の人生が映画化され、「疑惑のチャンピオン(原題:The Program)」というタイトルで公開された。勝つために手段を選ばないというより、あたかもトレーニングのルーティンのようにドーピングがプログラム化されていた、という意味だろうか。今、興味のある映画のひとつだ。

「アームストロング」はじめてこの名前を耳にしたとき、子供心になんと巖(いかめ)しい名前だろうと思った記憶がある。

1969年7月20日アポロ11号が人類初の月面着陸に成功した日。テレビのアナウンサーがこの名前を連呼したのを覚えている。日本時間では21日早朝だったので、それが生中継だったか、録画されたものであったのかは定かではないが、月面に残された足跡やたなびく星条旗。(近年、捏造説で物議を醸しているが)画面に釘付けになってモノトーンの月世界の映像

を見入ったものだった。長じて、天体望遠鏡を購入して、「天文ガイド」を片手に望遠鏡のレンズを覗くようになった。レンズを通して見える月のクレーターの質感。土星の環とカッシーニの間隙。冬のオリオン大星雲。目の前に広がる空間の何と神秘的なことか。いずれはきっと等と思うこともあったのだろうが、決してその道に進むことはなかった。そんな理由で「ライトスタッフ」は好きな映画のひとつだ。

アームストロングという名前を聞いて、思い浮かべるものは、人それぞれだ。もちろん世代によっても異なるだろう。

例えばアニメ好きな(当時はマンガと呼ばれて子供扱いされたものだが)昭和世代は、「巨人の星」に登場する見えないスイングのオズマ選手だろうか。主人公の星飛雄馬と数々の名勝負を残してアメリカに帰国した。その後オズマは大リーグで活躍をするのだが、ベトナム戦争をはさんで、悲しい結末をたどることとなる。詳しい話は別の機会に…。

また、私よりも少し上の世代では、サッチモかも知れない。

褐色の肌に人を食ったような悪戯っ子の目とトランペット。残念ながら演奏している姿を見た記憶はないが、彼の場合はジャズトランペット奏者としてより、ハスキーなジャズシンガーとして耳に残っている。「この素晴らしき世界(What a Wonderful World)」はCMにも使われているので、その声を耳にしたことはあるだろう。名曲だ。そんな理由で「グッドモーニング、ベトナム」も好きな映画のひとつだ。

そういえば、横須賀に住んでいる知人の女性が、アメリカ海軍横須賀基地の軍の方と結婚された。相手の方の名前がアームストロングさんだった。日本の習慣に従って、印鑑を作ったそうだ。その印鑑にはこんな文字が彫ってあった。

「剛腕」

お後がよろしいようで

最近の話題



サイエンスの フロンティア

元大阪大谷大学薬学部教授 株式会社新日本科学PPD ファーマコビジネス 雪村 時人
Yukimura Tokibito

バイオサイエンスのフロンティア

バイオサイエンスのフィールドにおいても、ほとんどの科学の領域と同じように、すでに明らかにされているところと、いまだ明らかでないところ、大方の見解が一致しているところとそうでないところの境があるはずである。これが学問のフロンティアでありこれは流動的である。流動的というのは、常に前進し続けるものでこれが学問の進歩と考えられている。人々はそのフロンティアにたつてあげた足を下ろす場所を探し、一步を踏み出したところにフロンティアは広がることになるからである。新たな発見となる。

ところが、新たな発見があり前進したつもりでも実験成績に再現性がないこともある。再現性は後で調べられるだけでない、むしろその発表に先んじてすでに同じ実験が別にされていて、その結果が出なかったこともある。実験は仮説を実証するために行われるものであるから、言いかえると実証できなかった場合、ネガティブデータは論文になりにくいもので、発表されることは少ない。

Nothing of evidence is not an evidence of nothing

これは、その仮説を実証できない、エビデンスが得られないということでもって、その仮説を否定することはできないという意味だろうと思われる。

また予測した結果とは真逆の結果におどろかされることはバイオサイエンスのおもしろいところの一つでもある。たとえばある介入により血圧が上昇すると考えていたら反対に血圧が下降したとしたら、これまでの考え方を根本的に変更することになる。

大間違いであることが後であるいはすぐに分かってしまうこともある。明らかにされたかと思っても実はそうでなくて、時に従前の理解がまったく間違っていたこと、あるいは修正が必要となることがあるのは興味深い点であろうし、また大発見となることもある。さらなる前進の過程には、やがて否定されることになる考え方、多くの人々が了解していても訂

正される古い考え方というものが必要であるのかもしれない。

胚細胞は、分裂・分化するものであって、分化した細胞が胚細胞に戻ることはないと言われていたのが、人工的にリプログラミングされるのだから。あるいは心臓が不可逆的に停止すれば死亡したとされていたが（心臓死）、脳機能の不可逆的な停止あるいは回復不可能な障害はやがては確実に死にいたるのであるが、この心停止を伴わない死（脳死）という概念が新たにつくり出された。臓器移植の際に限り使用される考え方である。

臓器と細胞の機能

個体としての死があったとしても、短期間であれ多くのあるいはいくつかの臓器機能はある程度保持されるし、これは臓器を構成する細胞は生きている（はたらいている）ことを意味する。

細胞は取り込んだ酸素とグルコースによりATPを産生し二酸化炭素を放出する。このATPのエネルギーにより細胞膜にある $\text{Na}^+\text{-K}^+$ ATPaseがはたらき、ナトリウムイオンを細胞外に放出し同時にカリウムイオンを細胞内に取り込む。この結果細胞内カリウムイオン濃度が上昇することになる。細胞内外の濃度差により細胞内のカリウムイオンはそのチャネルを通して細胞外に流出する。このときの陽イオンであるカリウムイオンが流出すると細胞内はマイナスに荷電する。

この静止状態にある細胞に刺激が加わると、ナトリウムチャネルが開口しナトリウムイオンが急激に細胞内に流入しマイナス荷電は消失し（脱分極）その細胞の持つ特有の機能が発現される。多くの場合引き続き細胞内カルシウムイオンが上昇することによる。その後再び細胞内はマイナスに荷電し次の刺激に備えることになる。この状態であれば細胞が生きているのであり、一つひとつの細胞の機能は複雑に交わり各臓器ごとの多様な機能が発揮されまた微妙に調節される。酸素は肺から取り込まれ、栄養物は消化器から吸収され、これらを全身の細胞にくまなく供給するのは循環器系の役割である。骨格筋のはたらきによりわれわれは運動する

し、感覚器が感覚を受容し、脳と内分泌系のホルモンが全身の機能を調節する。全身の細胞でつくられた二酸化炭素は肺から排出され、老廃物は腎臓から尿中に排泄される。

腎臓という臓器

腎臓の機能の一つは尿を生成することにある。腎臓は非常に多くの血液の供給を受けている。腎臓の重量は左右あわせても体重の1%に満たない(300グラム程度)が心拍出量の20から25%の血流を受けている。腎血流量は毎分1リットル程度で腎臓自体のガス交換や栄養・老廃物の交換に必要な量はわずかで、糸球体でのろ過が目的である。腎血流量の約10%がろ過されるが、実際に尿として排泄されるのは1日に1.5リットル程度で、ろ過されたもの99%以上は尿細管で再吸収される。腎血流量と糸球体ろ過量が大きいことは多くの老廃物の排泄、とくにタンパクの代謝産物の排泄に有利な仕組みである。尿細管での再吸収量が多いことは、腎臓の機能である体液量の調節に都合がよい。尿細管の再吸収のわずかの変化が最終的な尿量の大きな変化をもたらすことができるからである。

腎血流量は臓器重量当たり非常に多い。いったん全身循環に危急のことがあると、たとえば大量の出血や強烈な嘔吐あるいは下痢で相当量の体液が失われ循環血流量が低下した循環虚脱状態や、アナフィラキシーショックなどの急激な血圧の低下、心筋梗塞などで心原性ショックにおちいった場合など心拍出量が著しく低下する。こういったときには腎血管は強く収縮して腎血流量を低下させる。脳や心臓といったバイタルオルガンへの血流の配分を補償するためである。腎血流量の低下は糸球体でのろ過を減少させることになり尿量は著しく減少する、また腎自身の酸素供給が低下するので、急性腎障害が発症することになる。これからの回復が次の問題として残る。平常では大量の血流を受け血液浄化に努めているながら非常時には自らを犠牲にしてもバイタルオルガンを護ろうとする、腎とは健気な臓器であろうか。

腎障害の予防と治療

腎血流量の減少、すなわち腎虚血は腎障害の原因の主たるものの一つである。糸球体のろ液の大部分を再吸収する尿細管細胞の仕事量は少なくない、腎臓は重量当たりの酸素消費が多い臓器の一つである。それゆえ腎虚血の与えるダメージは小さくないのかもしれない。さらに腎障害を特徴付けるのは炎症反応であり、腎細胞の傷害さらには組織の繊維化が引き続くことになる。その直接の原因が明らかになれば腎障害の予防と治療の手立てにたどり着くことができる。この標的となるのがアンジオテンシンIIとノルアドレナリンである。

アンジオテンシンIIが腎障害を進行させることが知られている。腎臓から分泌されるタンパク分解酵素であるレニン、血中のアンジオテンシノゲンに作用してアンジオテンシンIを生成する。アンジオテンシンIは活性を持たないがア

ンジオテンシン変換酵素により活性体のアンジオテンシンIIに変換される。アンジオテンシンIIは強力な血管収縮作用を持つとともに腎障害を進行させることが知られている。アンジオテンシンIIの生成を抑制するアンジオテンシン変換酵素阻害薬や、アンジオテンシンIIと拮抗しアンジオテンシンII受容体への結合を阻害するアンジオテンシンII受容体拮抗薬は高血圧や心不全の治療薬として用いられるだけでなく腎保護効果をもち腎障害に対して用いられる。

ノルアドレナリンは交感神経末端から遊離され神経伝達物質として幅広い作用をもつカテコラミンでこれも腎障害の進行に関係する。ノルアドレナリンの血管収縮作用は血管平滑筋の α_1 受容体を解するものであることは従来からよく知られている、一方で腎障害がいかにして進展させるものかあまりよく知られていなかった。

実験的腎不全モデル動物において、虚血操作により腎機能が低下するとともに腎細胞傷害が引き起こされるのであるが、同時にアドレナリンが上昇する。この作用を調べると α 受容体のうち α_2 受容体が腎障害に関係することがわかった。ここに α_2 受容体遮断薬が腎機能の低下だけでなく細胞傷害もある程度予防することが示された。これは新たなフロンティアの発見と言えるかもしれないし、腎障害の新たな予防・治療薬の可能性が示されたことになる(1, 2)。

しかしながら多くの臓器に分布する α_2 受容体を遮断することは、腎臓だけでなく次に示すような他の臓器機能に影響を与えることがすでに多くの研究により示されているのでこの点の注意は必要となる。

- ・ 抗うつ作用
- ・ 催淫作用
- ・ 気管支拡張作用
- ・ 血管拡張作用
- ・ 血小板凝集抑制作用
- ・ インスリン分泌刺激作用

さらに細胞レベルや分子レベルでの作用メカニズムについての検討はさらに必要となる。細胞内カルシウムイオンの増加や虚血によるATP枯渇や活性酸素種の増加の関連性が示されているところで、抗酸化剤が腎障害の新たな予防・治療薬としての可能性も考えられている。未解決の問題が多く残されているので今後さらに注目を集める分野となることが予想される。

参考文献

1. Tsutsui H, Shimokawa T, Miura T, Takama M, Nishinaka T, Terada T, Yamagata M, Yukimura T. Effect of monoamine oxidase inhibitors on ischaemia/reperfusion-induced acute kidney injury in rats. *Eur J Pharmacol.* 2018 Jan 5; 818: 38-42.
2. Shimokawa T, Tsutsui H, Miura T, Nishinaka T, Terada T, Takama M, Yoshida S, Tanba T, Tojo A, Yamagata M, Yukimura T. Renoprotective effect of yohimbine on ischaemia/reperfusion-induced acute kidney injury through α_2 -adrenoceptors in rats. *Eur J Pharmacol.* 2016 Jun 15; 781: 36-44.

武蔵野大学薬学部、広島国際大学薬学部で「iyakuSearch」検索講習会を行いました

武蔵野大学薬学部、広島国際大学薬学部で「iyakuSearch」検索講習会を行いました。

JAPICでは、JAPIC維持会員機関を中心に、「iyakuSearch」検索講習会を実施しています。大学等教育機関向けの検索講習会は、主に医薬品情報学の講義時間をお借りし、情報検索演習の一環として実施しております。講習会はJAPIC職員が講師となって学生に説明し、例題・演習を中心に行いますので、実際にパソコンを操作しながら文献の検索方法や添付文書の入手方法を習得していただけます。

武蔵野大学薬学部では平成29年12月8日に、二つの会場に分かれて約120名の学部生に対して「iyakuSearch」検索講習会を実施しました。

広島国際大学薬学部では、平成30年1月19日に2回に分けて、各回50名ほどの学部生が実習に参加し、「iyakuSearch」検索講習会を実施しました。

講習の内容は、最初にJAPICについて簡単に紹介し、次に「iyakuSearch」で提供するデータベースの概要を説明した後、検索の基本的な操作方法を検索例題を解きながら習得していただき、最後は実際に演習問題を解いていただきました。対象となるデータベースは医薬品の有効性や安全性・品質に関する文献を収集した「医薬文献情報」、医薬品の有効性や安全性・品質に関する学会発表を収集した「学会演題情報」の他、「医療用医薬品添付文書情報」、「一般用医薬品添付文書情報」の4つのデータベースです。

「iyakuSearch」はYahoo、Google等の検索エンジンのような簡単な入力操作で検索結果を得られる検索仕様になっているため、パソコンやスマートフォンの操作に馴染んだ現代の学生はすぐに操作に慣れてしまい、操作方法でわからない点は学生同士で教え合いながら演習問題に取り組んでいました。

「iyakuSearch」はJAPICが作成・提供する医薬品情報データベースです。どなたでも無料で検索することができるiyakuSearchと、利用者登録を必要とするiyakuSearch Plusの二つのインターフェースを持っており、JAPIC維持会員機関に所属されている方は無料で利用者登録をすることができます。スマートフォンからも検索することができますので、いつでもどこからでも、自由にお試しください。

また教育機関に限らず、製薬企業の皆様にもiyakuSearchご利用機関向けにiyakuSearch検索講習会を実施しておりますので、ご興味のある方は是非お問い合わせください。



武蔵野大学講習風景



広島国際大学講習風景

医薬品情報データベースiyakuSearch

<http://database.japic.or.jp/>

iyakuSearchとは

JAPICが提供する国内外の医薬品情報に関するデータベースポータルです。

無料のデータベースを集約した“iyakuSearch”と、これに利用者登録または契約を必要とするデータベースを含めた“iyakuSearch Plus”の二つのトップ画面を用意しています。

iyakuSearchのコンテンツ

iyakuSearchは「医薬品情報データベースを医療関係者の方々に広く利用していただくこと」を目的に開発され、平成16年10月に「医薬文献情報」「学会演題情報」「規制措置情報（現在の「JAPIC Daily Mail DB」）」を公開し、同年11月に「医療用医薬品添付文書情報」を公開しました。

その後、「一般用医薬品添付文書情報」「臨床試験情報」「日本の新薬」「学会開催情報」「医薬品類似名称検索」とデータベースを追加し、平成21年4月に「効能効果の対応標準病名」をリリースしました。

iyakuSearch Plus

平成20年4月に利用登録者または契約機関向けのサービスとしてリリースしました。「医薬文献情報」の検索結果に抄録・キーワードを追加表示し、「学会演題情報」の検索結果にキーワードを追加表示します。

クッキー認証やIPアドレス認証など、認証機能を充実・強化するとともに、「医薬文献情報」の検索結果から、J-STAGE (JST) で提供されている無料の電子ジャーナルへのリンク機能を実装しました。

利用者登録

JAPIC維持会員機関に所属されている方は、無料でユーザIDとパスワードを発行いたします。iyakuSearchトップ画面右下の

利用者登録 ボタンをクリックしていただき、表示されるユーザ登録申し込みページに必要事項を記入し、お申込みください。

ログイン方法

iyakuSearchトップ画面右下にある **ログイン** ボタンをクリックし、表示されるログイン画面にお手元のユーザIDとパスワードを入力していただき、[ログイン]をクリックしてください。ここで入力したユーザIDとパスワードはご利用のパソコンにクッキーとして登録されますので、次回iyakuSearchにアクセスすると、自動的にiyakuSearch Plusに誘導されます。



iyakuSearchトップ画面



ユーザ登録申し込みページ

JAPIC NEWS 2018年4月号から医薬品情報データベース [iyakuSearch] を活用した記事の連載を開始します。

ご期待ください。

iyakuSearch Plusへの利用者登録、IPアドレス認証、検索講習会等のお問い合わせにつきましては、業務・渉外担当までご連絡ください。(TEL:0120-181-276、E-mail:gyoumu@japic.or.jp)

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2018年1月1日～1月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No. 634-636)の記事から抜粋

■米FDA

- 処方箋opioid鎮咳・感冒薬のDrug Safety Communication: 米FDA、表示変更を要求
<<https://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm592053.htm>>
- 栄養チューブ留置システム: 医療従事者向けレター-気胸イベントの報告
<<https://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm592051.htm>>
- 調合または再包装した医薬品の保存に用いるBecton-Dickinson (BD) 製造のシリンジ: 米FDAの警告-問題のあるゴム栓は置き換えられた
<<https://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm592437.htm>>
- Varubi (rolapitant) 注射用エマルジョン: Health Care Provider Letter-アナフィラキシーおよび他の重篤な過敏症反応
<<https://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm592592.htm>>
- 米FDAの長官 (Scott Gottlieb) の声明: リコールの公衆への警告と通知を強化するためのFDAの新たな政策措置について
<<https://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm592777.htm>>

■Health Canada

- Summary Safety Review: バーブ付き (結び目なし) 縫合糸-腸の閉塞 (小腸閉塞) の潜在的リスク評価
<<https://www.canada.ca/en/health-canada/services/drugs-health-products/medeffect-canada/safety-reviews/barbed-sutures-assessing-potential-risk-intestine-blockage.html>>
- OFEV (nintedanib) - 薬物性肝障害のリスクおよび肝機能の定期的なモニタリングの必要性
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2018/65670a-eng.php>>

■EU・EMA

- hydroxyethyl starch (HES) 含有医薬品に関するArticle 107i procedures (更新情報)
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/Hydroxyethyl_starch_107i/Recommendation_provided_by_Pharmacovigilance_Risk_Assessment_Committee/WC500241325.pdf>

■英MHRA

- 医薬品名の混同: 潜在的なエラーを警戒するよう再度注意喚起
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/drug-name-confusion-reminder-to-be-vigilant-for-potential-errors>>

■独BfArM

- 乳房インプラントと未分化大細胞型リンパ腫 (ALCL) の発症が関連している可能性について
<https://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Medizinprodukte/DE/Brustimplantate_ALCL_FDA.html>

■仏ANSM

- mexiletine AP-HP 200 mgカプセル-医薬品の禁忌の改訂: 医療専門家向けレター
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Mexiletine-AP-HP-200-mg-gelule-Mise-a-jour-des-contre-indications-medicamenteuses-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>
- 精巣の機能障害を示唆する研究の発表を受け、ibuprofenの適正使用に関して再度注意喚起している
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Rappel-sur-le-bon-usage-de-l-ibuprofene-apres-la-publication-d-une-etude-qui-suggere-des-perturbations-de-la-physiologie-testiculaire-Point-d-Information>>

■豪TGA

- Boston Scientificのペースメーカーおよび除細動器: ハザード警告および製品改修のためのリコール-緊急のソフトウェアアップデートが必要
<<https://www.tga.gov.au/alert/boston-scientific-pacemakers-and-defibrillators>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成30年1月1日～1月31日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈 配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順 〉

| 書名 | 著編者 | 出版者 | 出版年月 |
|--|--|--|----------|
| MIMS New Ethicals JAN-JUN 2018 Issue 28 | Leilani Au ed. | MIMS(NZ) Ltd. | 2018年 |
| 2018 USP 41 The United States Pharmacopeia /NF 36 The National Formulary | The United States Phramacopeian Convention | The United States Phramacopeian Convention | 2018年 |
| 企画展「薬害を語り継ぐ」スモン・サリトマイド・薬害ヤコブ病 | 全国薬害被害者団体連絡協議会 | 全国薬害被害者団体連絡協議会 | 2015年10月 |
| 今日の治療指針 2018年版 (Volume 60) : 私はこちら治療している | 福井次矢、高木誠、小室一成 総編集 | 医学書院 | 2018年1月 |

情報提供一覧

【平成30年2月1日～2月28日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

| 情報提供一覧 | 発行日等 | JAPIC作成の医薬品情報データベース | 更新日 |
|--|---------|-------------------------|---|
| 〈出版物・CD-ROM等〉 | | 〈iyakuSearch〉 Free | http://database.japic.or.jp/ |
| 1. 「添付文書入手一覧」2018年1月分 (HP定期更新情報掲載) | 2月1日 | 1. 医薬文献情報 | 月 1 回 |
| 2. 「一般用医薬品 (経済課コード)」2018年1月分 (HP定期更新情報掲載) | 2月1日 | 2. 学会演題情報 | 月 1 回 |
| 3. 「JAPIC NEWS」No.407 3月号 | 2月28日 | 3. 医療用医薬品添付文書情報 | 毎 週 |
| 〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供) | | 4. 一般用医薬品添付文書情報 | 月 1 回 |
| 1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」 No.1118-1121 | 毎 週 | 5. 臨床試験情報 | 随 時 |
| 2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」 | 毎 週 | 6. 日本の新薬 | 随 時 |
| 3. 「JAPIC-Q Plusサービス」 | 毎月第一水曜日 | 7. 学会開催情報 | 月 2 回 |
| 4. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.4064-4082 | 毎 日 | 8. 医薬品類似名称検索 | 随 時 |
| 5. 「JAPIC Weekly News」No.637-640 | 毎 週 | 9. 効能効果の対応標準病名 | 月 1 回 |
| 6. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.731-734 | 毎 週 | 〈iyakuSearchPlus〉 | http://database.japic.or.jp/nw/index |
| | | 1. 医薬文献情報プラス | 月 1 回 |
| | | 2. 学会演題情報プラス | 月 1 回 |
| | | 3. JAPIC Daily Mail DB | 毎 日 |
| | | 外部機関から提供しているJAPICデータベース | |
| | | 〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 | http://jdream3.com/ |
| | | 〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 | http://telecom.nikkei.co.jp/ |

医療用医薬品集

普及新版2018

2018年
3月発行



価格：**4,800**円(+税)

A5判／約1,900頁

本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約4,200頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。

約2,200成分、約22,000製品の医療用医薬品情報を2018年1月時点の最新情報で収録。

■掲載内容

- ◎一般名、製品名
- ◎承認日(一部製品)
- ◎組成(規格)
- ◎効能・効果、用法・用量
- ◎警告
- ◎禁忌、原則禁忌
- ◎慎重投与
- ◎重要な基本的注意
- ◎相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎副作用
- ◎高齢者への投与
- ◎妊婦・産婦・授乳婦等への投与
- ◎小児への投与
- ◎臨床検査結果に及ぼす影響
- ◎半減期

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

おうばい

黄梅と書く。学名: *Jasminum nudiflorum* Lindl. 英名: Winter jasmine。
もくせい科そけい属。中国原産。江戸時代に渡来。落葉性低木。花期は早春に葉が出る前に小さな黄色の花を多数つける。中国名は迎春花。英名はウインタージャスミンであるが花には香はない。果実を付けない。セコイリド

● イド配糖体のjasnudifloside 類やnudifloside類含有 (hy) ●



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。